

宮城県美術館 高精細レプリカ名作展

高精細レプリカの展示によって、当館を代表する高橋由一やカンディンスキーなどの名作を、身近にお楽しみいただける展覧会です。各会場では関連イベントも開催！ぜひご来場ください。



栗原会場の様子

蔵王会場 ※開催時間が前号から変更になりました。		
7月13日(土)～7月21日(日) 8:30～22:00※ *休館日なし	蔵王町ふるさと文化会館 (ございんホール)	イベント実施日 7月13日(土) 10:00～16:00
丸森会場		
10月5日(土)～10月13日(日) 10:00～16:00 *10月7日(月)休館	丸森町資料展示 収蔵館 まるもりふるさと館	イベント実施日 10月5日(土) 10:00～16:00

移動美術館 佐藤忠良展 関連イベント

ギャラリー・トーク
 [日時] 8月3日(土)9:00～10:00、9月7日(土)11:00～12:00
 [場所] 石巻市博物館 企画展示室

講演会「宮城ゆかりの彫刻家－佐藤忠良と高橋英吉」
 [日時] 8月24日(土)13:30～15:00 (13:00開場 予約不要)
 [講師] 土生和彦(当館学芸員)
 [場所] マルホンまきあーとテラス 小ホール

参加体験プログラム
 [日時] 8月17日(土)
 いずれも参加費無料、時間内いつでも参加できます。
 (混雑状況によってはお待ちいただく場合がございます)

- オープンアトリエ「だれでも創作体験」**
 [場所] マルホンまきあーとテラス アトリエ
 [時間] 10:00～15:30 [対象] どなたでも
 [内容] だれでも自由に、お絵描きや木工などの創作活動に取り組みます。
- キッズ・プログラム「シルエットクイズ&紙製スタンドをつくらう！」**
 [場所] マルホンまきあーとテラス ロビー(アトリエ前)
 [時間] 10:00～11:30
 [対象] 概ね10歳以下のお子さんとそのご家族
 [内容] シルエットを手掛かりに作品をさがします。その後、彫刻作品をモチーフにした紙製スタンドをつくります。
- ワークショップ「ポーズをまねよう! つくってみよう！」**
 [場所] マルホンまきあーとテラス ロビー(アトリエ前)
 [時間] 14:00～15:30 [対象] 16歳以上
 [内容] 彫刻作品のポーズをまねたり、テーマ(お題)のポーズをつくってみます。

休館中の当館の情報については、WEBサイトも併せてご覧ください

<https://www.pref.miyagi.jp/site/mmoa/>



2024年6月28日発行

RENEWAL NEWSLETTER

休館中も、
作品の旅は
続く

休館中の当館コレクションを
お楽しみいただける展覧会が、
県内外で開催されます。
遠方の会場もありますが、
機会がありましたら
是非お出かけください。
(詳しくは、中面の情報をご覧ください)

まちなか美術講座 宮城県美術館コレクションものがたり

宮城県美術館コレクションの中でも重要な作家の一人である、パウル・クレー。クレーを考える上で「こども『が』描いた絵」や「こども『を』描いた絵」は重要なテーマと言えるでしょう。今回は、クレーが生きた時代の言説や他の当館コレクション作家の話にも触れながら、「こどもの絵」と近代美術の関わりを考えてみます。



パウル・クレー
《おりたたみ椅子の子供1》
1908年 宮城県美術館蔵

[会場] 東北工業大学一番町ロビー2階ホール 仙台市青葉区一番町1-3-1(ニッセイ仙台ビル)	[日時] 8月31日(土) 13:30～15:00	[対象] 「こどもの絵」の美術史 ーパウル・クレーを中心に	[講師] 柴野倫子 (当館 学芸員)
--	------------------------------	----------------------------------	-----------------------

教育普及事業「学校アウトリーチ」のお知らせ

昨年度に引き続き、美術館から遠方にある学校を訪問し、鑑賞や表現の活動を行います。

令和6年度 実施20校	広域仙台都市圏：亶理町立荒浜小学校、岩沼市立岩沼西中学校 広域仙南圏：川崎町立川崎第二小学校、白石市立大鷹沢小学校、蔵王町立円田中学校 広域大崎圏：涌谷町立月将館小学校、大崎市立岩出山中学校、宮城県立支援学校小牛田高等学園 広域栗原圏：栗原市立志波姫小学校、栗原市立高清水小学校、栗原市立金成小学校 広域石巻圏：石巻市立和洲小学校、東松島市立矢本東小学校、石巻市立社鹿中学校 広域登米圏：登米市立東郷小学校、登米市立南方小学校、登米市立豊里中学校 広域気仙沼・本吉圏：気仙沼市立鹿折小学校、南三陸町立戸倉小学校、気仙沼市立大谷中学校
----------------	--

作品貸出情報

右記の展覧会に当館の所蔵作品を貸し出しています。
【北川民次《メキシコ戦後の図》《家族写真》】
※展覧会の詳細は会場にお問い合わせください。

「生誕130年記念 北川民次展ーメキシコから日本へ」
名古屋美術館 6月29日(土)～9月8日(日)



中谷千代子《ジオジオのかんむり》18-19頁原画 1960年(「絵本のひみつ展」出品作品)

絵本のひみつ展

宮城県美術館の絵本原画コレクションによる展覧会が、この夏、ひろしま美術館で開催されます。

林明子の2013年出版の絵本『ひよこさん』は、夕暮れから夜へ、時刻の移り変わりとともに深まる空色の变化を、美しい色づかいで見せてくれる作品です。その色の美しさのひみつは、面相筆をつかった、ある描き方にあります。

『うしかたとやまうば』で、山姥がうしかたを追いかけて沼に入り込む場面、沼の水の文様が、何かの模様にも似ていることにお気づきでしょうか。版画家として表現と技術を磨いてきた関野準一郎は、この絵本の原画を木版画で制作しました。この場面は、木版の木目模様を流水文様に見立て、木目を刷り出す技術を揮って表現されています。

宮城県美術館の絵本原画コレクションの核となっているのは、戦後の子どもたちに上質な絵本を届けることを目指して福音館書



林 明子『ひよこさん』5-6頁原画 2013年



関野準一郎『うしかたとやまうば』12-13頁原画 1972年

店から創刊され、物語絵本の草創・発展期を牽引した月刊絵本「こどものとも」の原画です。その絵の描き手には、様々な芸術分野で活躍する美術家や独創的な若手が積極的に起用され、彼らは、多彩な材料、技法、創意あふれる清新な発想で、物語の世界を魅力的に表現してきました。

この展覧会では特に、原画の前に立って直に向き合うからこそ感じ取られる手の痕跡や材料の質感に目を凝らしてみます。原画展ならではの体験が、絵本の背後に秘められた作家たちの想いや個性に一段と踏み込んで触れる糸口となれば、またそれが絵本原画を見る楽しみに一つ彩りを加えるものとなれば幸いに思います。

【会場】ひろしま美術館（広島市中区基町3-2）
【会期】7月6日（土）～8月18日（日）会期中無休
【入場料】一般1,400円（1,200円）、高・大生1,000円（800円）、小・中生500円（300円）
（ ）内は、前売りまたは団体（20人以上）の料金。

キュレ=タ=ズ・コラム

「宮城県美コレクション 世界の旅」

本誌では、普段はなかなかお伝え出来ない、美術館や美術の話題についても取り上げていきたいと思ひます。今回は海外への作品貸出しのお話です。

写真は、2013年にグッゲンハイム美術館で開催された「具体」展の作業中の様子です。この展覧会には当館の所蔵品7点が出品されていました。加えて、2012～13年にニューヨーク近代美術館で開催された「東京1955-1970：新しい前衛」展にも当館の所蔵品10点が出品されており、ニューヨークのマンハッタンで開催された二つの展覧会の会期が10日間程重なっていたために、特にこの間は、世界中から訪れた多くの美術愛好家に、当館の作品をまとめてご覧いただく好機となりました。

この時、当館から計4人の学芸員がクーリエとしてニューヨークに赴きました。クーリエとは、所蔵品を海外に貸し出す際、作品に同行する人を指します。クーリエは貸し出し先との間の輸送や展示・撤去に立ち会い、全てが安全に遂行されるように、作品の状態や取扱い、環境の確認等を行います。これまで当館から海外への出品は何度か行われており、筆者もこの他、オランダや韓国にもクーリエとして行っています。海外への貸出しはとても神経を使いますが、作品輸送やクーリエにかかる経費を負担してでも出品してほしいという依頼があるということは、当館の作品が世界的な評価を受けている証とも言えます。

現代美術を牽引してきたニューヨークの両館で戦後の日本美術が紹介され、その中で当館のコレクションが展示されるのを見て、大きな意義を感じました。これからも作品の安全に最大限努めながら、当館のコレクションを広く知っていただく機会も大切にしていきたいと思ひます。（学芸部 加野恵子）



建築家フランク・ロイド・ライトが手掛けたカタツムリのような形状が特徴のグッゲンハイム美術館で展示された、当館所蔵作品（松谷武判《作品 66-2》）の梱包作業の様子。2013年5月

移動美術館

佐藤忠良展 —宮城県美術館コレクションから—

宮城出身の彫刻家、佐藤忠良（1912～2011）が手がけたブロンズ作品や絵本の仕事を紹介する展覧会が石巻市博物館で開催されます。



佐藤忠良《ポタン(大)》1967-69年

会場は3章構成で、第1章「佐藤忠良の世界」では、群馬出身の友人をモデルに、その半生で出会った人々の質朴さを表現した《群馬の人》（1952年）、帽子やジーンズなどに注目し、独自の具象表現に至った《帽子・夏》（1972年）などの代表作を展示します。第2章「子どもたちへのまなざし」では、「小児科」と呼ばれるほど多くの作品のモチーフとなった子どもたちの

姿に焦点をあて、第3章では「絵本の仕事」と題し、佐藤忠良が作画を手がけた絵本『おおきなかぶ』など、紙芝居や絵本もあわせて展示いたします（原画は展示されません）。

また、石巻ゆかりの彫刻家、高橋英吉（1911～1942）が手がけた《少女像》（1936年）、《男の顔》（1939年）も特別展示されます（いずれも宮城県美術館蔵）。佐藤忠良と高橋英吉は同世代の彫刻家でした。佐藤は「真の芸術家らしい青年」だったと高橋英吉の印象を語っています。

会期中、講演会、ギャラリー・トークのほか、参加体験プログラムも開催いたします（裏表紙イベント情報をご覧ください）。ぜひ、この夏は石巻市博物館に足をお運びください。

【会場】石巻市博物館（石巻市開成1-8 マルホンまきあーとテラス内）
【会期】8月3日（土）～9月29日（日）
【休館日】月曜日（祝日の場合は翌日休館） 【入場料】無料



いろいろな言語に翻訳された『おおきなかぶ』（佐藤忠良（画））

学芸員のオススメ!

滝登くらげ『学芸員の観察日記 ミュージアムのうらがわ』
（文学通信 2023年）

美術館・博物館の「中の人」、学芸員について皆さんはどのくらいご存じでしょうか。伝統的かつ根強い誤解として、学芸員＝展示室に座っている人、というものがあありますが、彼らは観覧者や展示作品に事故が起きないように見守る看視スタッフであり、学芸員とは別の仕事なのです。では、学芸員とは実際にどんな仕事をしているのでしょうか？

この本はそんな疑問にとってもわかりやすく答えてくれます。もともとはSNSで連載中の4コマ漫画なのですが、描かれているエピソードは私たち学芸員がおもわず「あるある!」とうなずくものばかり。というも作者は現役の学芸員。動物の姿で描かれる個性的な学芸員たちの仕事ぶりには、作者自身が「体験したことや、出会った人々が混ざり合っている」とのこと、そのリアリティはかなりのものです。

加えて、「山奥美術館」で働く動物たちは愛らしく、これまで美術館や博物館にそれほど興味がなかったという人にとっても、楽しく読めるものとなっています。学芸員や美術館・博物館の「中の人」を知るきっかけとして、手軽に読み進められるオススメの一冊です。

（学芸部 土生和彦）

